

TIA ナノバイオサマースクール開催報告

全ての細胞を覆う糖鎖は生命に必須の生体分子であり、最近では医療分野において大きな注目を集めていますが、授業では十分に学ぶ機会がありません。そこで、糖鎖と糖鎖認識分子であるレクチンの基礎から応用について学んでいただき、糖鎖への理解を深めるとともに、新たなことに挑戦する意欲を高め、広い視野を取得することを目的とし、糖鎖、レクチンについて学びたい学生や社会人の方を対象として、平成30年9月6～7日の2日間、昨年に引き続き第2回目となる「TIAナノバイオサマースクール(糖鎖・レクチン)」を、お茶の水女子大学で開催しました。

企画・運営を担当された国立研究開発法人産業技術総合研究所 創薬基盤研究部門細胞グライコーム標的技術グループグループ長 館野浩章上級主任研究員にお話を伺いました。

今回はサマースクールの校長を帝京大学の笠井猷一先生にお願いしました。企業、研究所、大学などの若手研究者、大学院生、大学生など34名が全国から参加頂きました。

第1日目の午前中はまず受講者全員から一人3分で研究紹介をして頂きました。準備は大変であったと思いますが、皆さんしっかりとした発表をして頂きました。さすがに企業の方は慣れてる様子で、しっかりと笑いをとっていました。午後は「糖の基礎」について、産総研の平林淳先生、亀山昭彦先生、筑波大学の工藤崇先生、そして成蹊大学の戸谷希一郎先生の4名の講師が講義を行いました。糖化学、糖鎖構造解析、糖転移酵素、糖鎖合成についての基礎と先端研究についてご講義頂きました。難しい内容も多かったと思いますが、積極的な議論が行われました。この日の最後にはグループで10年後の日本の社会課題を解決するための糖鎖研究について議論して頂きました。議論は期待以上に白熱している様子でした。その後、大学内の食堂で交流会が開催されました。グループワークでの議論の熱が冷めやらず、交流会でも引き続き活発な交流や議論が行われました。第2日目は「糖鎖の機能」について、千葉大学の川島博人先生、国立感染症研究所の白土東子先生、お茶の水女子大学の小川温子先生、創価大学の木下聖子先生から講義頂きました。免疫、感染症、レクチン、糖鎖科学データベースと多岐にわたるテーマについてご講義頂きました。糖鎖が重要な生命機能を担っていることを良く理解することができました。データベースは知らない方も多く、参考になったようでした。そして株式会社レグザムより製品紹介の後、グループワークの発表会を行いました。短い時間の中で議論内容をまとめ、どのグループもしっかりとした研究テーマをご発表頂きました。今回はあえて同じ立場、年齢でグループを構成し、議論頂きましたが、グループメンバーの構成が変わると、また違う議論ができたのではないかと思います。質疑応答も活発に行われ、多くの受講者が刺激を受けたのではないかと思います。



大学の授業ではほとんど糖鎖について講義を受ける機会がありません。そのため、学会に参加しても発表内容を理解できないことも多いと思います。今回のサマースクールでは、最先端の研究をしている研究者から、まず基礎的な内容をご説明頂き、その後ご自身の最先端の研究についてご紹介頂きました。そのため、受講者にとっては大変勉強になったはずです。お忙しい中、授業の内容をご準備して下さった講師の先生方に深く御礼申し上げます。また、今回はグループワークを導入することで、受講者の皆様も糖鎖について考える良いきっかけとなったと思います。企業や研究室に戻った後にも、引き続き課題解決に向けた糖鎖利用について議論を深めて頂ければ幸いです。

今回もアクセスの良い東京都文京区のお茶の水女子大学の講義室をお借りすることができました。相川京子先生には深く御礼申し上げます。また産総研からは計3名の方が運営を支援して下さい、スムーズにプログラムを進めることが出来ました。この場を借りて御礼申し上げます。糖鎖、レクチンの人材育成という点からも、このような機会を頂いたことに心から感謝申し上げます。皆様の感想を参考に、次回は更に充実したサマースクールを開催できればと思っております。引き続きご支援、ご協力の程、何卒よろしくお願い致します。

開催日	2018年9月6日(木)～7日(金)
場所	お茶の水女子大学
主催	産業技術総合研究所TIA推進センター、レクチン利用技術研究会
共催	お茶の水女子大学
参加人数	34名(内 大学院生17名、学部・高専生2名、社会人15名)